

1 問5の「⑤ 情報が少なくどちらともいえない」記述式について

- ・165名の回答中、記述があったのは40名

(要約)

情報・説明不足で判断しづらいとの意見が40件の中では多く、生徒の安全確保を最優先に、災害リスクの低い立地で早期に移転・着工を求める意見も多数でした。

一方で、将来負担や税負担への懸念から、標準的規模・機能での整備、既存施設(高校・小学校・公共施設)の活用や複合化、防災拠点、スクールバス整備などを望む意見もあります。

また、地域のつながりや教育の質への配慮を求める意見もあります。行政には、透明性の高い説明と結果公表、保護者・若い世代の意見の反映、迅速な意思決定を求める要望もありました。

(主な意見)

- ・小中一貫の是非・影響の不明点
- ・メリット・デメリットの提示要求
- ・情報・説明の不足
- ・通学・アクセス
- ・既存施設・高校活用

2 問5の「⑥ その他」記述式について

- ・62名の回答中、記述があったのは58名

(要約)

現中学校の老朽化や災害リスクを強く懸念し、子どもたちの安全確保と教育環境の改善を最優先に、早期の移転・整備を求める声が58件の中に多く見られます。

一方で、人口減少や少子化、将来世代への財政負担を踏まえ、施設規模の抑制や新築にこだわらない柔軟な対応、既存施設(高千穂高校・小学校・公共施設等)の活用を提案する意見もあります。

小中一貫校や中高連携については期待と慎重論が混在し、地域性や教育の質、現場実情への配慮を求める声が挙がっています。立地については安全性やアクセス性、公共施設との近接を重視する多様な要望があり、スクールバス、防災機能、空調やトイレ整備など具体的改善も求められています。加えて、説明不足や計画遅延への不満が強く、保護者や若い世代の意見を反映した透明性ある説明と、行政の迅速な意思決定を望む意見があります。

(主な意見)

- ・小中一貫や中高連携の是非
- ・既存施設や高校の活用・仮設利用
- ・説明不足やアンケート設計への批判

3 問7の「④ その他」について

- ・130名の回答中、記述があったのは114名
(要約)

全体として子どもの安全確保を最優先に、費用とスピードを重視した現実的な対応を求める声が114件の中には多く見られた。新築にこだわらず高千穂高校や上野中学校など既存施設の活用を提案する意見もあり、これにより事業費の抑制や早期移転が可能になるとの意見がある。

また、現中学校の立地が災害リスクを抱えていることから、一刻も早い安全な環境への移行を求める切実な声が多い。一方で、中学校移転と同時に検討されている複合施設や道の駅などの大型事業に対しては否定的・慎重な意見が多く、「教育とは切り離して考えるべき」「まずは中学校移転に集中すべき」との指摘がされている。併せて、計画決定までの遅れや説明不足への不満もあり、行政には明確な方針提示と迅速な意思決定を求める声強い。

総じて、将来世代への負担を抑えつつ、現実的かつ早急に子どもたちの学習環境を改善することが最大の論点となっている。

(主な意見)

- ・費用やコスト抑制や将来負担への配慮
- ・旧上野中や高校などの既存施設活用
- ・複合施設や道の駅など他事業の見直し
- ・安全性重視(現校舎の危険回避)
- ・早期移転や早期決定の要望